

特集 ● 広聴制度

お聞かせください あなたの声



毛呂山町には、一年を通じて、町民の皆さんからたくさんの意見が寄せられています。

苦情や要望、提案、激励——。

こうしたさまざまな声のなかには、まちづくりのアイデアがたくさんあります。

もっともっと、たくさんの声を町に届けていただくため、

今月号では「広聴制度」を特集します。

どのように町に意見を伝えるのか、皆さんの声がどのように町行政に反映されるのか、広聴制度のあれこれをご案内します。

問合せ 役場秘書広報課広報広聴係 ☎内線332

あなたの声が、毛呂山町の未来を作ります

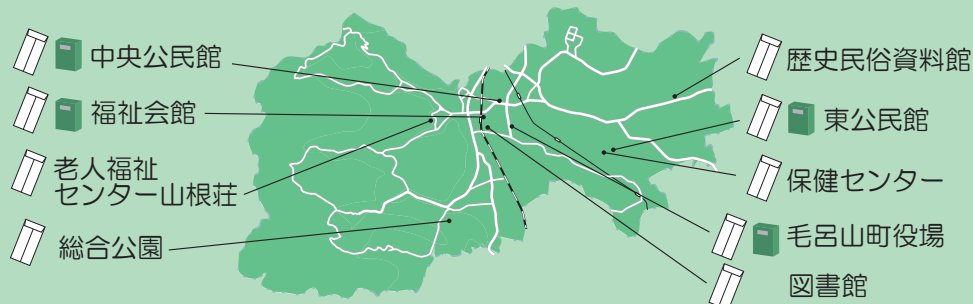
「広聴」とは、町民の皆さんの声を「広」く「聴」くこと。「広報」で伝えた町のお知らせに対する意見を「広聴」で取り入れ、その結果をまた「広報」でお知らせする……。 「広報」と「広聴」は、町政運営のための、車の両輪のような関係です。

現在、地方分権が進み、自分たちの地域のことを自分たちで決められるようになりました。ほかの町で成功した政策を毛呂山町で行っても、必ずしもうまくいくとは限りません。町の特徴、住民の要望を取り入れた毛呂山町らしいまちづくりを進めていくためには、住民一人ひとりの意見や要望を行政に反映させることが大切です。

町は、「協働のまちづくり」を基本理念として掲げ、多くの住民がまちづくりに参画できるよう、直接、町長に提言できる「町長への手紙」や「町民の声」、「町政モニター制度」を取り入れています。具体的な政策への提案はもちろん、身近な相談や苦情も、町づくりのための貴重な意見です。

今月の広報では、これらの広聴制度について、どのように利用するのか、具体的にどのような声が寄せられているのかをお知らせします。みなさんの声を、どうぞ町にお聞かせください。

「町長への手紙」・「町民の声」設置場所



メールで送る場合

✉ hisyo@town.moroyama.saitama.jp

FAXで送る場合

町長直通
FAX 049 (295) 2118

広聴制度 その1

まちづくりは、あなたの声の主役です！

町長への手紙・町民の声

直接、町政に対して意見を述べるのが、「町長への手紙」と「町民の声」。利用方法はとても簡単です。「町長への手紙」は、意見を書いたら、町内9か所に置いてある専用の封筒にいれ、切手を貼らずにポストに投函します。町民の声は、町内4か所に設置してある投書箱に入れるだけです。また、電子メール、FAXでも、意見を受け付けています。

いただいたご意見は、町長が直接目を通し、関係各課にも回覧されます。その後、内容について回答を作成し、提案者に返信します。なお、最近、匿名の投書がよく見受けられますが、せっかくよい提案でも、連絡先の記入がないと、回答することができません。投書の際は住所、氏名などをお書きください。

皆さんから寄せられた声を紹介します



町民の声投書箱から

子育ての支援をお願いします。

町では、教育・子育て事業に力を入れており、平成21年度は子育て支援センターなどの設置に向け準備を進めます。こども医療費の無料化は、平成19年度に対象年齢を小学校就学前から小学校6年修了時まで引き上げ、さらに平成21年度から、対象年齢を中学生まで拡大しました。また、無料で妊婦検診を受診できる回数を5回から14回に拡大し、安心して子どもを産める環境を整えました。

●問合せ 子ども課児童係 ☎内線113



町長への手紙から

武蔵野霊園前交差点に、信号機を設置してください。

信号機の設置については、地域や住民から要望書を出していただき、町から西入間警察署へ設置の要望をしています。西入間警察署では、現場判断を踏まえてそれらの要望内容を検討し、最終的に埼玉県公安委員会が決定します。武蔵野霊園前交差点は、町からすでに西入間警察署に要望書を提出していますが、時間がかかっているのが現状です。今後も西入間警察署を通じて要望を行っていきます。

●問合せ 生活環境課交通防犯係 ☎内線213



町民の声投書箱から

防災行政無線があまり聞こえず困っています。

町では、年2回防災行政無線の点検を実施して、音量やスピーカーの方向を調整していますが、早急にパンザマスト（放送塔）のスピーカーの位置や音量の調整を実施し、対応します。

●問合せ 総務課自治振興係 ☎内線314



電子メールから

タバコのポイ捨てがとんでも多く、困っています。

喫煙者のマナー向上のため、広報に啓発記事を掲載し、駅前に「歩きタバコの禁止」や「ポイ捨て禁止」などの立て看板の設置を行いました。今後も、引き続き、喫煙者にマナーを守るよう呼びかけていきます。

●問合せ 生活環境課環境係 ☎内線212

広聴制度 その2

組織的・継続的に町民の意見を行政に反映

町政モニター制度

町政モニター制度は、平成4年に、広く町民に町政への参加を求めめるためにはじまりました。町政参画に意欲的な10人の町民が町長から委嘱され、2年間、町政モニターとして活動します。

「町長への手紙」や「町民の声」と大きく異なるのは、組織的、継続的に町民の声を聴取することができるということです。主な活動は、年に数回行われる「町政モニター会議」で、町長が必要とするテーマなどについて論議し、意見を述べることで、「町政モニター通信」で日常生活のなかで気づいた問題点、町政に関する意見や要望などを報告することです。

ここでは、具体的に、どのような提案が出され、町政に反映されたのかをご紹介します。

商店街の活性化について

モニター会議



商店街のイベントの様子

町の商店街を活性化させるためにはどうしたらよいか、町政モニターに意見を募りました。

- 商店街が行っている様々なサービスについて、周知が足りないように思える。
- 商店の人と会話を楽しみながら、ゆっくり買い物をしたいという高齢者などは、多いはずである。商店の人が、昔ながらの人情味あふれる対応を続けることで、お客さんも買いに来てくれると思う。
- 買う品数が少ない人は、スーパーで品物を選んだり、レジに並んだりするよりも、個人商店に行ったほうが、ほしいものがすぐ見
つかり、レジに並ばなくてもすむという利点がある。
- 車がなくて商店街にいけない人のために配達をしては。商店が連携して、様々なものをまとめて配達してくれば、とても便利だと思う。
- 商店街だけで必要な品物がそろわないのが問題。また、特色ある品揃えをしてはどうか。
- 今、食の安全が問題になっているので、その点をうまくPRしたらどうか。身近な店なら安心できる。そういった点をアピールすれば、商店街に買いにいこうという人は多いはずである。

町政モニター会議について

平成19年度、20年度の会議のテーマは右記のとおりでした。テーマ以外にも、道路、町づくり、医療福祉など、幅広い分野にわたって多くの意見が提案され、活発な議論が交わされました。会議後には、これらの意見・提案などが関係各課に渡され、行政活動を行ううえでの貴重な参考資料となりました。

●開催回数 5回

●テーマ

町政に関する要望、意見
広報もろやまについて
町を元気にする活動について

モニター
通信

道路の補修をしてほしい

先日、中央公園付近の交差点で、水溜りの水を車がはね、水をかぶってしまいました。車が多く行きかう道路は、へこんでいるところが多々あります。雨上がりの日に、見回り、補修してほしいと思います。



町では、雨上がりの道路パトロールや現場に出向く際などに、舗装状態の悪い場所を把握し、地区や住民からの要望も踏まえ、順次、全面的な舗装打替などの修繕工事を行っています。財政状況も厳しく、すべてには対応しきれないため、危険な箇所から工事を行っています。ご提案の箇所は、緊急対応として、応急用アスファルトで補修しました。また、今年度、北側から交差点まで全面的な舗装打替えを行います。

町政モニター通信について

平成19年度、20年度のモニター通信の件数は右記のとおりでした。次のような、建設的な意見が数多く寄せられました。

- 大類交差点付近の道路は、通学路になっているが、道幅が狭く、交通量が多いため危険である。子ども達が安全に通学できるように対策を考えてほしい。
- 花の名所を作り、町を活性化してはどうか。
- 川角農協前交差点の渋滞を解消するため、右折車専用車線を作っしてほしい。

●件数

平成19年度 18件

平成20年度 14件

【内訳】

・提案を反映したもの 10件

・参考・検討としたもの 10件

・その他 12件

平成19・20年度 町政モニター INTERVIEW



かやまひさし
嘉山尚志さん
(毛呂本郷)

町民にとってよいと考えて町が行っていることでも、的を射ていないこともありますし、我われ町民が問題だと思っていることを、町が気づいていないこともあります。行政サービスを行う町が、サービスを直接受ける町民の意見を聞き、お互いが理解を深めることで、それぞれが満足のいく結果を生み出すことができると思います。

町政モニター会議で出された課題のなかには、すぐに結論を出せないものもありますが、この制度で提案されたことをきっかけに、様々な課題について行政と町民双方が考え、よりよい町づくりに結びつけることが大切だと考えています。



新井二三子さん
(ゆずの木台)

私と夫は、毛呂山町のきれいな川と緑にあこがれて、東京から引っ越してきました。この町が大好きで、少しでもお役に立てればと思い、モニターに応募しました。モニターになってから、今まで漠然と好きだと思っていた町のことを、真剣に考えるようになりました。

忙しいときには、体はもちろん気持ちにも余裕がないものですが、町政モニターは、会議の回数もそれほど多くありませんし、モニター通信は好きなときに使えますから、たくさんの人にこの町政モニターになってもらい、私では気づかなかったような色いろな意見を出してほしいと思います。